

第2回 三木市手話施策推進会議 会議録

日時 令和元年11月1日(金) 午前10時～午前12時

場所 三木市役所 4階 特別会議室

公開

傍聴人 なし

出席者：山本紋子・梶正義・澤谷菊代・池上睦・黒井一寿・藤田守

厚和子・三枝恵・西田たつ子

山口正明(オブザーバー代理)・與倉秀顕・山本容子・嵐田真奈美

開会

あいさつ

資料確認

令和元年度手話言語条例啓発ポスター選考

選考結果

最優秀賞		別所中学校	2年	田丸桜月
優秀賞	小学校低学年の部	豊地小学校	3年	枚田楓花
	小学校高学年の部	緑が丘小学校	5年	芹生伊織
	中学校の部	三木中学校	2年	久保田万智

令和元年度実施状況

事務局	説明
-----	----

令和2年度実施計画案

事務局	説明
委員	具体的に5年先までの方向性を示してもらい、考えやすくなった。双方向でやり取りができる方が良い。ポスターも市民に選んでもらうなどしてはどうか。選んで終わりではなく、どういう風に利用するかなどの意見を聞いたりすることで広がり方も違う。ターゲットをどこにするかも考えていけたらと思う。
委員	わかりやすくプランが出てよかった。5年後の目標に数値が入るといい。数値がないと目標達成率をどのくらいと考えているかわからない。 教職員に対する講座が年1回と目標が低い。講師の養成も数が少ない。 通訳者を10人増やすという目標があるが、試験の合格者が少ない

	中で、具体的にどうするか出すべきではないか。
委員	派遣数は増えているのに通訳者はなかなか増えない。ろう者、通訳者も高齢化している。若い人に引き継げるようにしてほしい。 災害が起こった時が不安なので、災害にも日頃から備えてほしい。 災害の問題をこの手話施策推進会議と意思疎通支援運営委員会どちらで出せばいいのか、一緒なのか、わからない。
事務局	今日の手話施策推進会議は条例についてすべての事を話しすることが出来る。ろう者の権利も含めた手話に関するすべてのことを含んだ会議で、意思疎通支援事業運営委員会よりも上位の位置づけになる。災害のことも、この会議で考えていただけたらと思う。 災害について考えると、推進方針に該当するものがない。実施プランに、条例の2条として聴覚障害者の社会参加、ろう者への支援や具体的な支援について載せているが、これでよいか考えて、災害が起きた時にどう支援していったらいいか、社会生活の支援をどのようにしていけばいいか議論していただきたい。方針には書いていないが、聴覚障害者への支援については条例の中で前提としているので、どのような項目をいれていけばいいかも議論してもらえればありがたい。
委員	聞こえない人の暮らしに積極的に支援をしていこうということで、このまま進めて、具体的な目標を入れるといいと思う。 案の中で「ろう者のための日本語教室などを実施する」とあるが、ろう者は今まで日本語を使用しなければならないということで手話を抑えられてきたので、日本語を学ぶ教室よりは、いろんな災害などの情報が手話で内容がわかる教室や災害の時に安心できる対応を構築していく方がいい。成人の聴覚障害者にいろんな情報がきちんと入る支援の方法と、災害対応についてと2つ入れてはどうか。
委員	突然災害が起きたらどうすればいいのかわからなくなってしまうと思うので、事前にそういう施策を入れて、方向性を示しておくことが大事だと思う。災害が起きた時、日本語ではなくて身振りでもかまわないので聞こえない人に伝える方法をもっと伝えていかなくてはならないと思う。
委員	条例を使って施策を実行していく時、全体を見る方がいいのか、3条の中で市長に災害についてしっかり検討せよということで出すのがいいのか。条例の運用の仕方としては、どうすればいいのか
事務局	この会議の中で委員から必要だと言われた内容は、市長へあげていくことが出来るので、議論をして、こういうことを入れてほしいと

	意見を出してほしい。
委員	外出時に災害が起きた時どうすればよいか。
委員	市民の代表として今後も手話に対して認識を深めていくことが大事だと思う。災害の時どうやって対応するか、地域の代表者、区長、災害ボランティアと連携して、地域の住民で一番最初に不自由な人たちに声をかけられる人材を育てていくことが大事だと思う。
委員	今の意見については、プランに含まれているか。
事務局	今は災害については決まっていない。この会議の中で意見として皆さんにまとめていただいたら、それを入れようと思っている。
委員	学校へ手話啓発講座に行っている。先ほど災害の時は身振りでもいいから伝えてほしいと言われていた。高校に行った時に、生徒に「災害が起こったら、聞こえない人にどういう風に知らせるか」考えてもらった。そういう形で啓発をして、困っていると思ったら聞こえない人にジェスチャーでもいいから対応してもらえたらいいと思う。
委員	私は手話がわからないので身振りの方がいい。
委員	災害の時に問題が起こるのは、日頃ろう者に対する理解が足りないために、さらに大きな問題になってしまうのだと思う。災害に備えて、いろいろ考えていくことが大切なので、そういう項目を入れていただければと思う。
委員	プランの事業内容で、「社会参加を支援する」となっているが目標が「イベントをする」ではうまくつながってない。聴覚障害者に対する情報が届くように何かすることが大事な目標だと思う。災害の時にどう対応できるかを聴覚障害者と市民が共有していくというようなことを目標に入れてもらいたい。イベントと言われると5年後に一回やって終わりというように読めるので書き方を考えてほしい。
事務局	今日は「聴覚障害者の社会参加」についてが施策の中に入っていないので入れていく、災害や社会参加、情報を伝えるということについても入れると決めたところで、具体的に施策におとした内容で案を作って、それをまた議論していただく形でいかがか。より具体的にどういう形にしていくのか事務局で纏めたいので、関係する方にも少しお力をいただいて案を作っていきたいと思う
委員	それをお願いしたい。
委員	具体的な提案がなされているのはいいが、目標として「条例がいかされるようにする」では中味がわからない。 「病院内での手話研修の実施を支援する」と「講座を実施する」と

	書いているが、実施するのか支援するのかわからない。どう使い分けておられるのか教えてほしい。
事務局	事業所に対しての目標が「講座を実施する」となっているが「支援」が抜けている。
委員	市が実施すると考えていいのか
事務局	事業所から依頼があった際に講師を派遣するなどして支援ということ。学校なども依頼があるところに行かせていただいているので「支援」ということになる。
委員	実施となると内容もすべて市がやるということになる。
事務局	事業所については、市から出前講座のようなことをやるということ啓発する。事業所の事情に合わせて時間が取れるということであれば、出前で講座に出向く。事業所と病院をわけているのは、病院は専門的なこともあるので特化した内容を考えなくてはいけなかつと思いで別にしてはいるが、形としては一緒と考えている。
委員	課題や現状のところをわかりやすく書いてもらう方がいいと思う。学校では、小・中・高と3回受けられるのはいいが、実際何割くらいで実施できているか確認する方がいい。小学校のアンケートで「よくわかつた」の割合が低い。「小学校に対する指導の仕方を工夫するべき」というような分析が現状の中に入っていると、5年後の目標が適切なのか、どのようにすればいいか見えやすくなってくると思うので工夫してほしい。奉仕員養成講座に来ておられる方も学生の時に手話講座を受けたことがあるので来たという人もいる。啓発講座の効果は長い目で見ないといけなかつと思う。
事務局	アンケートは手話啓発講座の受講者に実施している。前回の会議で今後につながるようなアンケートの内容を検討してはどうかというご意見をいただいたので、ご意見をいただければと思う。
委員	ここでアンケートの細かい中味について議論するのは難しい。結果を取り上げる方がいいと思う。アンケートの内容については啓発講座の講師が話し合つてはどうか。小学校で「よくわかつた」の割合が少ない。小学校の子供たち楽しんで講座を受けているし、楽しめる内容を準備しているのに「わかつた」という割合が少ないのであれば、工夫が必要だということでこの場はいいのではないか。講師を担当する人が、この結果をどう生かすことができるかが大事。
委員	子どもたちの中には「わからなかつた」という子もいる。発達の過程で、手話を覚えようとするとき説明を聞きながら、見て、情報を短

	<p>期記憶しないといけない。それが苦手な子は「(記憶)できなかつた」「わからなかつた」というふうに思ってしまう。そういう子たちへの配慮として「今日は1つだけでも覚えてらいい」とか学校と連携しながら子供たちがまたやってみようと思えるように工夫してほしい。</p> <p>アンケートに「次どのようなことをやってみたい」というような内容を小学生にも付け加えてほしい。今後もやってみたいと思う子もいると思うので、次の情報も教えてあげてほしい。つながっていくことで手話検定に合格していく子たちも出るのではないか。</p>
--	--

閉会